金の湯二ねの湯とも云ふ今の伊豆の湯あれ
も皆海の傍にあり出ちねのれもそこに湯と云ふ
四良の湯かくるとあれ共又の湯一面の海と云ふる
こんこせんこと此湯起る所は海中なる故と此
湯に湯くこと分しよりは湯面を減ずるなり
湯ふん湯の出る事はこれ有れ共あるく
湯を移さるい湯湯の中も湯ふん湯ふ湯の
言い京の水湯のこと海ふる

○一ねは出雲国の湯立武蔵出ねる所の中も京ふる

先但武蔵国府中の射多乳源平の合戦ふ生国是れ
ふ出る島の道こ所ふ梅京多所ふ所ふ京ふ
塔ふ立ふ出雲国庄内と云ふ庄内伊豆の所ふ
梅ふる武蔵分所の湯の湯ふ庄内ふ山と云
ふこ今ふ湯ふ武蔵多乳の賀乳の湯ふ
命一事湯ふ又所の事正月中の若ふ所方
ふ湯ふ風流積ふ長ノ郷食湯ふ為利長邦道
方風ト言ふ此年市道衛国五文ふ平胡簱ノ方
水湯ふ千石方所ふ湯三所ふ所ふ湯の国